

1. なぜ教育データサイエンス教育に取り組むのか

次世代を担う子どもたちにより良い教育を行うためには、データサイエンスに対してより高い素養を備えた教員を養成することが必要であるため。また、教育分野でのDXを推進する人材が不足しており、それらを担える人材を育成するために大学院に教育データサイエンスプログラムを開設した。

2. 育成を目指す教育データサイエンススキル

教育学部では、教員として必要な基礎的なデータサイエンスの知識習得に取り組む。大学院博士課程前期（教育科学専攻）では、教育とデータサイエンスに関する深い専門的知識を持ち、ICT・DS力を組み合わせた高度な課題解決能力と転用可能な技術（トランスファラブルスキル）をもとに、DX時代の教育の新たな可能性を見出す力の育成に取り組む。

3. 本学が提供しているプログラム・科目（代表例）

課程	プログラム・科目名	概要	対象・規模	履修者の主な進路
教育学部	教育のためのデータサイエンス（科目）	将来教員になった際に、学校現場で得られる多様なデータを用いて教育の改善に役立てることができることを目指す。	選択必修 ※数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）	教員（小中高）
	教育現場の問題解決に向けたデータ活用・データサイエンス（科目）	Excelを使用し回帰分析や検定について学ぶとともにPythonを使用して機械学習やAI基礎について体験し、教育現場の問題解決に向けたデータ活用・データサイエンスの基礎を身に付けることを目的とする。応用基礎レベルの科目。	選択（主に技術情報教育学プログラムの学生）	教員（小中高） 大学院進学
博士課程前期（人間社会科学研究所）	教育データサイエンス学位プログラム	専門知識、領域融合、データ活用、制度改善、評価・検証、デジタル・アナログの融合、倫理観を有したデータサイエンスやデジタル技術について十分な知識・技能を有し、それを活用して教育の諸課題を解決することによって、より適切な教育環境の構築や教育実践・学校運営に結びつけられる教育DX人材を育成することを目指す。	教育分野でのDX推進やデータサイエンスを活用して貢献することを目指す学生	高等教育機関において教育データサイエンス教育を担当し得る教師教育者

4. 本学の教育データサイエンス教育の特徴

(1) 学内体制と学外とのパートナーシップ

- プログラム独自科目の他、大学院共通科目や研究科共通科目、他プログラム専門科目から構成されている。
- PBL形式で、自治体と連携し実際の教育課題の分析やエビデンス創出に取り組む内容構成。

(2) 特色ある取組

- 教育の充実という方向性に基づいて高度な人材育成を行い、教師教育者育成を展望するなど、教育界全体を見渡した取組が進められている。

(3) 今後の展望

- 博士課程後期課程「教育データサイエンスプログラム」開設に向け準備を進めている。
- 「教職開発専攻（教職大学院）」とも、今後連携が進められる予定である。
- プログラム間の体系性を担保し、ラーニングアナリティクスなどの専門家を採用し研究・教育体制を強化する必要がある。

5. 本学のシラバス、その他参考資料等

○シラバス

<https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/syllabusHtml/>

- <https://www.hiroshima-u.ac.jp/gshs/senkougakui/kyouikukagakusenkou/kyoikudatesciencep>